

平成22年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成22年12月13日（木）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

意見交換

・コーディネーター

やまじ きよたか

山路 清貴 さん（まちづくりコーディネーター）

・発表者

【南区中村地区】

すぎやま しゅんこ

杉山 潤子 さん（中村ふるさとづくり実行委員会委員）

やまむら りょういち

山村 良一 さん（中村ふるさとづくり実行委員会会計監査）

【都筑区池辺地区】

ざま つねかず

座間 恒一 さん（池辺町連合自治会会長）

くりはら かつひと

栗原 克人 さん（都田中学校PTA会長）

【保土ヶ谷区千丸台地区】

みなみで としお

南出 俊男 さん（千丸台地区社会福祉協議会会長）

山路 みなさん、こんにちは。山路でございます。昨年度もこの役をおおせつかったのですが、昨年度より時間が15分延長されています。恐らく、昨年度は評判が良かったのかなと思います。もしかしたら、しり切れとんぼだったのかなとも思いつつ、頑張りたいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

実はこの会、進行のシナリオがありませんので、どんなテーマを話し合うのか、どんな議論になるのか、盛り上がるか、しぼむか、すべて皆さん次第ということでもあります。是非御協力のほど、よろしくをお願いします。

これから、登壇している方には、色々お話を伺っていきます。答えについては、昨年度もそうだったのですが、登壇している方が全て答えるのではなく、会場に来ているお仲間が詳しいということであれば、その方を指名して下さって結構です。ですので、登壇している方を存じ上げている方は、突然、話を振られるかもしれませんので、その際はよろしくをお願いします。

進め方ですが、登壇している3つのグループから、他のグループ、あるいは、会場の皆さんに聞いてみたいことのポイントを言っていただきます。その後、会場の皆さんからご質問をいただきながら、話を広げていこうと思っております。恐らく1時間がすぐに経ってしまうと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

それでは、早速始めたいと思います。発表順に、最初は中村地区から他の2地区の話を聴いていて、あるいは、自分たちが活動していて、「こんなことをもう少し聞いてみたい」ということをお願いします。

山村 はい、私、中村地区の山村と申します。

他の2つの地区を聞かせていただいて、本当にそれぞれの特徴があるのを感じます。私たちの地区で活動をしていて感じるのですが、活動に参加してくれる方、特に核になっていただける方として、声を掛けるのがとても苦労するところなんです。会場の皆さんもこういう活動をされてる方がいらっしゃると思いますので、人集めをするときの何かヒントがあれば教えていただきたいなと思います。

山路 そうなんですか。先ほど、中村地区のスライドを見ていたら、活動者が大勢いらしゃったので、逆にどうやって集めているのか聞きたかったんです。まだ御苦労があるということですが、どういうところから仲間を見つけ出しているのか、何か知恵があればお願いします。

座間 人集めということでは、「元気づくりの会」設立時の役員のセッティングが大変でした。今は、本当に前向きな連帯感が出てきたなと思いますが、役員さんになっていただく人をいかに探すかというのは大切なことだと思います。

私は去年まで1期2年間、連合会長を務めている間に、区役所から元気づくりの指定を受けました。役所の協力があって地元が乗れる体制をつくることができたのですが、役員になってくれる方を探すことが、今まででは一番大変だったかなと思います。役員が決まれば、連合会としても体育指導委員や青少年指導員などに動いてもらえば、子供たちとのコミュニケーションも取れると感じておりました。始めは会長職も「1期でいいな」と思っていたのですが、もう1期ということで1年が過ぎてしまいました。

山路 ありがとうございます。連合の持っている底力みたいなものが発揮されているという感じでしょうか。

もう一つ、私は池辺地区さんの発表で、中学生がたくさん出てきたのがすごく印象的でした。子供の参加というのは恐らくどこの地区も難しく、小学校4年生ぐらいまでは、お土産を取りに来る立場としてはたくさん居ても、スタッフ側として5、6年生、あるいは、中学生が出てくるというのは珍しいですよ。

栗原 私、都田小学校のPTA会長をやっていますので、学校の先生方と大分親しくなりました。今回は最初、子供たちに募集をかけたのですが、それでは少し足りなかったもので、先生方をお願いして、「こういうことに興味ある子たちいないかな」ということで集めてもらったという経緯があります。

山路 栗原さんは座間さんに引き込まれて活動に参加したのですか。

栗原 はっきり言いますとそうなんです...。たまたま、都田小学校のPTA会長と、おやじの会の副会長をやっておりまして、そういう関係からこの会に参加した訳です。

山路 活動に参加する際に、何か抵抗はありませんでしたか。

栗原 座間会長のことは小さい頃から知っていましたので...。私、実は農業もやっておりますので、昔から地域に色々知り合いがあります。

山路 いわゆる旧住民層ですね。

栗原 そうですね。旧住民層ですので、知り合いが非常に多かったので、すんなりといきました。

山路 座間さんからすると、栗原さんに行きついたところは、うまくいったなという感じですね。

座間 そうですね、やはり地元で知っていますし。実は、栗原さん本人よりもお父様をよく知っていて、昔から地元でお酒を酌み交わした方なので、その息子さんをこの会にお願いするというのは楽でしたね。

山路 なるほど。

座間 それと先ほども画面でお示したのですが、地域の課題のところ、子供たちの非行の問題、カッコして「親たちの問題」と書きました。池辺町にも、小学校が2校ありますので、親たちの教育って言うと誠に申し訳ないんですけど、子供に対する親たちの心構えというのかな、ということをしたいなと思っています。

それともう1点、一番初めのイベントとして、やんちゃ和尚さんが来て講演をしてくれましたが、小学校の構堂をもっといっぱい埋め尽くしたかったです。しかし、子供たちの親の出席が少ないということが本当に残念でした。この1年間やってみてそう思っています。PTAのお母さんたちにも話を聴いてもらいたいと思っています。だいが呼びかけたつもりだったんですが、呼び掛けも悪かったかもしれませんね。

山路 どうもありがとうございます。では、千丸台地区の南出さんのところは どうやって巻き込みをしているのですか。

南出 地域ケアプラザでボランティア募集をしても、なかなか参加する人がいないという地域で、ボランティアのグループもできなければ、NPOの団体もできないような地域です。私たちの主たる活動者は、昭和39年に入居した、当時、一緒に子育てに励んだ人たちで、今も、一緒に活動してくれています。そこに新しく入ってこられた方々が少しずつ若さを与えてくれているのかなと思います。高齢者集団の活動と言えるかと思います。

山路 昭和39年というと、東京オリンピックの開催も近く、そのときは皆さん若かったから、正に自分たちの子育て、子供のことがテーマだったのでしょうか。

南出 はい、そうです。

山路 その子供たちが巣立っていった今、今度は老後の自分たちの支援をしている。活動している人はずっと同じで、テーマを変えているということなんですね。

南出 はい。

山路 そういうパターンもありそうですね。どうもありがとうございます。お答えいただいた2つの地区は違う人の入れ方をしていますが、会場の皆さんで、「こうやって活動者を増やしています」といういい事例を経験なさっている方、いいやり方を御存じの方いませんか。

会場A 私は町内会長をしておりますので、その立場で質問、御参考ということでお話をさせていただきます。

発表いただいたのが、連合町内会や地区社会福祉協議会の部会の活動でしたので伺いま

す。連合町内会も地区社会福祉協議会も色んな施策をやっていると思うんですが、その地区社会福祉協議会と一緒に施策を進めるときに、町内会長やスタッフはどう関わっているのでしょうか。地区社会福祉協議会は連合町内会でやっていると思うんですが、地域に根付かせるのは町内会の仕事だと思っております。私どもの地域を見ますと、社協は社協、町内会は町内会で、分担金は出しているけど、なかなか協力して施策に取り組みない。苦勞をしているというお話もありましたけど、その辺のことをお聴かせいただきたいと思います。

それから、参考になるかどうか分かりませんが、私どもの町内は約2,100世帯、人口6,300人で、役員が17名、地区長さんが50名、班長さんが170名ぐらいの大きな自治会で、加入率は約93%です。

御多分に漏れず、高齢化率は約28%、5年後には32%になります。そこで、「みんな、知恵を出そうよ」ということで地域にアンケートを取り、どんなニーズがあるかを調査しました。あわせて「私、こういう手伝いだったらできます」と言っていただけの方を募集しました。すると、95名ほどが書いてくれました。その中から、現在48名の方がお助けマンとして、電球の取り換えや、枝の剪定、ごみ出し、病院への送迎などの手助けをしております。人材の発掘には、もちろんアンケートもありますが、気付かせる仕掛けが必要なのかな、と思っています。地域の方はやらなきゃいけないことはみんな御存知なんですね。防災にしても防犯にしても。だけど、分かっているがやろうとしない人がほとんどだと思うんです。その人たちに気付かせる仕組みや仕掛けが必要なのかなと感じております。

そういう視点で進めてみると、気付いた人はモチベーションが上がってきますので、人材という形で顕在化してくると思うんです。地域には色んな能力を持った方がいらっしゃいます。それを資源とするならば、その資源が顕在化する仕組みや仕掛けができていないと、人材はいないのと一緒にのかなと思います。

山路 そちらは割と新しい団地なのでしょうか。

会場A はい、開発されて40年ぐらいで、色んな地域の方がいらっしゃいます。ほとんどが戸建てで、非常に権利意識が強い地域です。

山路 ありがとうございます。「役員募集」と言われると荷が重くてできない、となってしまうかもしれませんが、「草むしり」のように「こういうお手伝いができますよ」といった、ある特定のことなら出来るという人はいるのかもしれませんがね。

今、組織に関して一つご質問がありました。「地区社協」という組織と、「自治会町内会」という組織、地縁型の組織の「2大巨頭」と言っているのでしょうか、があります。その間をどううまくつないでいるのか、連携しているのか。「その間での合意というのはどうなっているのか」というお話がありました。千丸台地区では役割分担をしながら連携しているということでしたが、もう少し詳しく御説明いただけますか。

南出 千丸台地区では、役割分担をはっきりさせて、競合しないことが大切だと考えております。競合することによってどちらかがつぶれ、反発をする、ということをよく見かけるので、それだけは絶対にならないようにしたい。そのために、私（地区社協会長）が自治会の相談役になっております。そして、自治会長は地区社協の顧問になり、そして民協の会

長が地区社協の相談役という形で、役員の中に構成されております。そしてお互いの意見を、お互いの場所で伝え合えるようにしております。

山路 相談役以外でよくあるのは、両方の会長が同じ人というパターンですね。千丸台地区はそれぞれが別々なんですね。

南出 同じになりますと、どちらかに比重がいきってしまい、どちらかが軽くなってしまいうというケースがありますので、兼務はしないということでやっております。

山路 ありがとうございます。池辺地区では何かありますか。

座間 池辺町連合自治会は今言われたことと逆で、地区社会福祉協議会の会長と連合自治会の会長を同じにしています。言われていることは本当に分かるんですが、池辺の場合ですが、やはり連合自治会で動かないと、社会福祉協議会の構成員というだけでは足りないんですね。

山路 地区社会福祉協議会は組織の長が集まった組織で、実際の活動者がいない訳ですよ、会員があまりはつきりしていない。町内会は会費を払ってる会員さんがいて名簿が作られる、という風に会員は明確です。その違いが大きいということでしょうか。

座間 先ほどの南出さんの説明の中にもあったと思いますが、池辺はどちらかということも熟成している町だったんですが、ららぽーとという大きなお店が出て、700世帯もあるマンションが建ちました。そこで、「ああ、今までのやり方ではいけないのかな」という考え方が出てきたのです。今、ららぽーとの中の自治会づくりもお願いをしているんですが、子育て支援で言えば、池辺町の10自治会にはもう子どもが少ないんですね。ところが、ららぽーと地区は若い人が多く、子育て盛りの人が多いので、子育て支援の何かちょっとしたことをやるにも、ららぽーとのマンションの人たちの方が多くいます。

会費を使う使わないの問題ではないんですが、自治会の会費というのは、自治会の会員から集めたものですね。しかし、子育て支援の行事には会員でない人の参加の方が多い。社会福祉協議会なら、行政から言わせれば、全世帯対象ですね。

山路 そうですね。

座間 そういうことなんです。連合と地区社協が一体となって活動しているから、会員かどうかを気にせず柔軟にやっていけるんです。連合だけでも地区社協だけでもできないことです。

山路 この2つの町は、町の成り立ちというか、町が出来上がった背景が全然違うということですね。千丸台の場合には全く新しく開発された団地、先ほどご質問された金沢区の方も、どちらかということも新しく開発された団地ということで、割と同質な町があるのに対して、池辺地区はむしろ多様な町がパッチワーク状にある訳ですね。それを一つにすること自身の苦労が違うのだらうと思います。

中村地区の場合には、実行委員会に地区社協も連合自治会も入っている訳ですが、状況はいかがですか。また違う立場から、連携のあり方で御苦労もあるかもしれませんね。

山村 私、中村地域ケアプラザの所長をやっております、ふるさとづくり実行委員会の事務局として、会計監査をやっております。

事務局という立場でのお答えとなりますが、地域ケアプラザができたのは平成18年です

が、先ほどのスライドでも紹介があったように、それまでも歴史的にずっとつながってありました。地域ケアプラザができる前から、地区社協の会長と連合町内会長はずっと兼務されてきました。

それで、ちょうど地域ケアプラザのできる平成18年4月に、連合町内会と地区社協の会長が分かれたという経緯があります。地域ケアプラザという施設は一連合のところもあれば、2つ3つの連合町内会で関わっているところもあるのですが、中村地域ケアプラザはたまたま一連合で、しかも、一つの地区社会福祉協議会です。

先ほど2地区の会長さんがお話になったように、地域には色々な活動がある訳ですが、地域ケアプラザができたのをきっかけに、町内会の部分と地区社協の部分とを少し「整理していきましょう」となりました。地区社協は地区社協としての活動をするという考え方が発端で、ふるさとづくり実行委員会ができる経緯の一つとなっています。

で、たまたま在日外国人の子供たちのこと、言葉の問題など、が当時の中村地区社協の問題として挙がっており、ここに同席している主任児童委員の杉山ですとか、今日、会場にいる浦瀬さんとか、皆さんがちょうどその話の中に入っていたので、「これを一つのふるさとづくり実行委員会という形にしてやっていこう」「その母体となるのが地区社会福祉協議会だね」となった訳です。地区社会福祉協議会では連合内の各町内会長が理事や評議員になっておりますので、まずは連合に入ってもらい、地区社会福祉協議会の実働部隊としての実行委員会をつくっていこうという経緯でスタートしています。

ですから、中に入っている団体には連合町内会もいるし、連合町内会の中で委嘱をされている民生委員や主任児童委員もいます。それから学校の子供たちの問題を考えてきましたので、その地域の小中学校、外国人問題の教育問題に携わってくれていたNPO、そういった団体が入った実行委員会の形となっております。

これは実行委員会の皆さんからも出る意見なのですが、実際に動いてくださる核になる方の確保が難しい状況です。その点でヒントがあればなと思っております。

山路 実行部隊は実際の活動を色々やっていく訳ですね。連合自治会は全体を見渡ししながら、その活動にお墨付き、先ほど会場からはコミットメントともありましたが、そこでやることの合意、あるいは、全体をマネジメントする、という役割ですね。実行委員会が活動内容を連合に説明したり、同意を求めたりというようなプロセスはあるのでしょうか。

山村 年に2回、実行委員会の総会をやります。そのときに連合町内会の方もお見えになります。総会では、事業計画の説明と事業報告をやっておりますので、そのときに、コミットメントを頂くというような形になります。

山路 ありがとうございます。今度は池辺地区さんがほかの地区、あるいは、この会場にいる方に聞いてみたいことや「自分たちの発表についての反応をもう少し知りたい」ということをお願いします。

座間 千丸台地区と中村地区では、地区社会福祉協議会と連合の活動を分けているということでしたが、それでうまくいくのかなと思うのです。回覧を回すにしても、地区社会福祉協議会では回せませんよね。連合だからこそ、ということだと思うのですが。

山村 中村地区での広報紙の回し方ですが、やはり連合町内会の皆さんにお願いをして、

各会長さんから、全戸に配付をしていただいております。

座間 そういった事情もあって、池辺では全自治会長さんに地区社会福祉協議会の理事になってもらったので、違和感なく回覧物を回すことができます。両者にはっきり線を引くことについては、ここでは良い悪いは言いませんが、私としては両者がイコールでいいんじゃないのかなと思っています。

山路 まずは仲がいいということが前提なんですよ。一人ひとりの会員個人のところまで行き渡るとというのが町内会の大きな強みですね。その部分は町内会にさらに力を発揮していただきながら、個別の事業を進める上では、町内会も結構手いっぱいなところがあったりするので、福祉の事業は、「地区社協の実行部隊を作ってそこでやろう」というような動きが出てきている、そんな感じではないでしょうか。

南出 私どもの地区で言えることは、自治会町内会にも、ごみの問題のような実質活動はありますけれども、主にはイベント的な、またPR的な事業が主であって、実質的な活動は、社協が中心だということです。私たち社協の事業は、日常的、365日24時間体制の事業であるということですね。夜中に呼び出しがあったら、そこに行って対応するというのを、当番で回ってくる自治会の委員さん方をお願いするのは難しいです。

回覧については、私たちの場合、自治会の幹事会に参加して、社協の回覧物をそこで説明しながらお願いをするということを毎月やっており、スムーズに進んでおります。

山路 ありがとうございます。不和を生まないという気持ちがあれば、一緒になるのが分かれば、色んなやり方があるさうだということで、一応、結論としておきたいと思えます。

では、今度は千丸台の南出さんから、他の地区の方に聞きたいことはございませんか。ご自分の発表に対して、「この辺の反応を会場から聞きたい」ということでも結構です。

南出 私たちの活動について、地域外の人から色々質問を受けるんですが、地域の中からの意見というのが全く出てこないんです。これが不思議で、自分たちが必要になれば声がかかんですが、それ以外のとき、こちらから「何か御意見下さい」と言っても、意見が出てきません。他の地域ではどうやって意見収集等をしているのか、何かいい案があったら教えていただきたいです。

山路 すでにアンケートなど色々苦労をされているのに、なかなかちゃんとしたことが分からないということですね。

南出 はい。

山路 何かありますか。会場でも結構です。自分たちの活動が地域のニーズにあっているのか、地域の人は何を考えているのか、などの情報収集について、いい方法をお持ちの方いらっしゃいますか。

座間 うちでも、精通しているのがいますので、ちょっと振ります。

山路 御指名がかかりました。

座間 池辺町の地区社会福祉協議会イコール民児協なんですが、民児協の活動で「安心くん」というのをお年寄りの方に配りました。それが全国的に人気が出まして、その流れを作ってくれた池辺町地区社協の事務局長がいます。その辺りのことを手短に、2分ぐらい

で話してもらいます。

柴田 突然振られまして、何を答えればいいのかとありますが、先ほど、栗原さんに「役員やるのに大分脅されてるかい」と言われていたのですが、実は私もうっかり座間会長に娘の仲人親をお願いしてしまい、その日以来こき使われております。

そういうことで、私は池辺地区社会福祉協議会の事務局長をおおせつかっている柴田と申します。南出会長のご質問に対するお答えはちょっと難しいのですが、社協と連合自治会という話について、社協事務局の立場からちょっと感想を述べさせていただきます。

というのは、池辺も今みたいにうまくいってなかったんです。「連合は連合で」とか、「社協の活動は民生委員」といった具合に、うまくいかなかった時代もありました。

しかし、今は非常にうまくいっています。その根本には、自治会も社協も地域福祉のボランティア団体の集まりじゃないか、という考えがあるのだと思います。ただ一点違うことは、自治会町内会は自分の意思で会費を払って会員になっているけれど、社協は地域に住んでいる人全体が、池辺町で言えば池辺町内の住民全員が地区社協の会員であるということ。今日の発表を見ていただければ分かりますが、この活動をやるのに池辺町連合自治会、地区社協、民児協、青少年指導員、体育指導委員、高齢者クラブ、子供会、水辺愛護会、小中学校と、まだまだあります。このように、池辺町の中にある各種団体がこぞってこの元気づくりに参加をしています。

それぞれが自分の持ち分を生かしてやっています。よく例に使わせていただくのですが、例えば池辺町の町内会でやっている大きなイベントとして、歩け大会があります。これには毎年500、600人が参加してくれますが、歩け大会ですから、自分の足で歩いて行って、近くの公園に行ってお弁当を食べたり、イベントをして歩いて帰ってくる行事です。

そこに歩けない人は参加できないのかという話がでたのですが、「池辺地区社協が何とかするよ」ということになりました。地域の幼稚園からバスをお借りして、歩けない人たちの家を回って送迎する。続いて「その活動には民生委員も加わるよ」となりました。こういう関わり方で、町内で行われる各種行事に社協も民児協もこぞって参加する。そして自分たちの持ち分をしっかりと分け合って、活動費もはっきりさせて分担する。歩け大会で言えば、社協はバスの借り賃やガソリン代を負担するというように、同じ行事にみんなが、持ち分を明確にして関わりを持つようになっていきます。そんなことで池辺町では、今年から社協と連合自治会の会長と一緒にしてもらった訳です。会長はもう冠かぶって黙って座っててくれればいいと。あとは各種分野別にみんながやりますよと、そういう形で今やってるのかなと思います。以上です。

山路 ありがとうございます。今の話で千丸台と共通しているのは、全体の事業は一緒にやるけれども、それぞれの持ち分を明確にするという点ですね。

もうひとつ、今のご発言で面白いなと思ったのですが、池辺町は誰でも参加ということに相当強くうたってらっしゃいますね。「誰でも参加」というときは、地区社協というのは便利な組織なのかなと感じました。連合町内会というのは会費をもらっているの、会費をもらっている人とももらっていない人が明確な訳ですね。会員と会員でない人が明確と言ってもいい。池辺町のように新住民が多くて、町内会加入率がどんどん下がってしまう

ような地域だと、「町内会が主催です」と言うとかまうまいかなとこがあるって、そのときには「住んでる人全員会員ですよ」と言える地区社協のほうが動きやすいのかな、と感じました。

ただ、一方で、これも一般論ですけども、地区社協という名前はあまり売れていませんね。そこで、連合とかなり重なっている組織だということを出していかないと、「地区社協って何ですか」、「私はそんな会員になった覚えはないですよ」といった話が出てきてしまうことがあるように思います。

実は、今のお答えは先ほどの御質問と少し違ってまして、活動している地区内の色々な意見をどうやって集めるんだという御質問だったんですね。地域に住んでらっしゃる方の本当の気持ちとか希望、要望、考え、自分たちの活動に対する評価などを集めている、そのような地区はございますか。やはり難しいところでしょうか。

聞いてもなかなか手が挙がらないというのは、もしかすると、ニーズがきちんと把握できないまま活動している可能性、危険性があるということですよ。「これでいいの」という疑心暗鬼になりながらやっていると、「労多くして…」ということになっても困りますね。活動の評価というか、「やってくれて有り難い」という言葉を、どうやって集めてくるのでしょうか。そうした言葉があると自信を持ってやれるのかもしれないですね。なかなか手が挙がらないので、この辺は難しい課題なのかなと思います。

それでは、こちらから伺いたいこともひとつとお聞きしましたので、今度は、会場からもこの3つに限らず、「今日はこんなことを聞いてみたかった」、「こんな悩みがあるんです」という方、あるいは、この発表に対して「もうちょっと深く知りたい」という御質問ありませんか。

会場B 私、町内会長をやっております。「自治会町内会の仕事は祭りだけだ」と言われることがあるのですが、一番根を張って、一番地域に詳しいのは単位の自治会町内会で、そこで防犯、防災、福祉など、全部を完結したとしましょう。そうすると、連合町内会とか地区社協というのは、屋上屋のような存在で「何をするのか」ということになりですね。連合町内会や地区社協というのは、お互いに連絡会であり、寄る所の紹介であり、それぞれへのサジェスションであり、という感じで、緩いまとまりです。それぞれの意見を出し合って、「このようなのはひとつ、いいのあるね」ということで、横広げに徹するというやり方が、好ましいと思うんです。

どうして連合町内会や地区社協が独立して存在して、それをカバーしなくてはいけないかが、分からないんです。それは結局、自治会町内会に力がないから、それを補うためにそういうことをしなくてはいけないのかどうか、その辺が、以前から疑問でした。先ほど同じ金沢区の方が良く似たことを言われた気がします、こういう発表会で、連合や地区社協の活動がうまくいっていると、よく聞きます。しかし、地域に根を張って福祉をやっていると、色々な声が聞こえてきますが、連合や地区社協では広いと思うんです。地域の真ん中あたりにあると、ちょっと声が遠くて聞こえてこない。どうして、そういうエリアでうまくいくのかな、と思います。自治会町内会が弱いからなんでしょうか。

山路 単位町内会ということでしょうか。

会場B 地区連合町内会、地区社会福祉協議会の組織の中です。5つの町内会があって、まあ、5つがバラバラということにはなるんですが、バラバラの良さというのがある訳なんです。それぞれが地域や町内に根差した、文化、風土をうまく生かしながら活動しているので、意見交換して悪いところも指摘し合えばいいと思うんです。

山路 ありがとうございます。連合は連絡会であって、個別の活動は単位自治会でやれるじゃないか、そちらの地区ではそれでできてよ、ということですね。

会場B 本来は単位自治会がやらなくてはいけないんです。まず第一番に自治会町内会が、できることまで一生懸命やって、もしできなければ、横を広げるという順番でやるべきだと思います。

山路 千丸台は団地ですが、団地全体がひとつの連合というのと、一般の地区とは少し違うかもしれません。連合と単位自治会の関係も様々だと思いますので、「もっともっと単位自治会が頑張るべきだ」、「単位自治会で解決できるのが一番じゃないか」という御意見、御質問に対し、何かご意見はございますか。

会場C 自治会長をやっています。私は日ごろ、周囲に「安近短」と言っています。足の不自由な方も多いですし、経済的に恵まれない方もいらっしゃるの、なるべく行事は安く、近場で、時間は短く。これが一番いいんだろうと思っています。

そうすると、連合よりも単位自治会を活性化させて、単位自治会で色々な事業を行うのがいいのではないかと思います。

連合自治会はというと、やはり教育の問題とか、地域全体の課題について、行政と協力して推進するところが一番大きいと思います。

では、地区社協はというと、やはり各地区共通の高齢者支援や子育てですね。これには一定の拠点も必要です。そう考えると、連合も地区社協もある程度広域でやらなくてはいけない面もあるけれど、基本は先にどなたがおっしゃったように、単位自治会で、なるべく近場で手短に行うというのが、望ましいのかなと感じております。

山路 望ましいこととできることという話になっていくかもしれませんが、では、「連合にも役割があるじゃないか」というご意見はありませんか。

会場D 港南区の住民です。私たちの連合町内会では、会議に地区社会福祉協議会も入っています。連合町内会長は地区社会福祉協議会の副会長です。それから各自治会の副会長は、地区社会福祉協議会の副会長になっております。その両方で重なっている人もいますし、また、そうでない方もいらっしゃいます。

地区社会福祉協議会では、保健活動推進員、消費生活推進員、民生・児童委員などの方々が毎月定例会をやっておられます。その中には、自治会、連合町内会の理事の方もいらっしゃいます。ですから、両方でやっております。

それから会費の問題ですけれども、自治会費を納めている世帯数に応じて、地区社会福祉協議会に会費を納めております。

単独の町内会自治会でも色々なことをやっていますが、連合町内会でやっている主な仕事というと、夏の盆踊りや体育祭で、これらは単独の自治会町内会ではできませんので、連合町内会がやっております。地区社会福祉協議会は連合町内会と共催でやっております

ので、これは各会長さんも理事さんも全部来て、接待役を始め、色々なことをやっております。連合町内会と地区社会福祉協議会というのは大体、一体ですけれども、それを分けております。

それから総会につきましては、同じ日に同じように連合町内会の総会があったらそのまま引き続いて地区社会福祉協議会の総会をやっております。単独の自治会町内会ではできない行事もありますので、「自治会町内会が弱いから連合だ」という訳ではなく、大きい連合町内会、例えば 1,500世帯あるような連合町内会でも色々な行事をやっております。

ですので、私は屋上屋を重ねるという意見にはくみしないのであります。

山路 ありがとうございます。この議論が深まっていってもなかなか答えは難しいですね。私が存じ上げている限り、連合と自治会の形は様々だと思います。

例えば単位自治会といっても5,000世帯を超える単位自治会も幾つか存じ上げておりますし、それ以上小さくて「連合」というところもございます。様々ですね。それから、連合と自治会の関係も様々です。

地域ごとの歴史的経緯もあるので、これが良い悪いということは、なかなか言えないと思います。

それぞれの役割はあると思いますが、連合がそれをやりきれず、単なる連絡会になってしまっているということも存じ上げていますし、「自治会だけでは何もできないよ」というところもある。逆に、今言われたように、「連合では大きすぎて、防災については自治会でやらなければ意味がない」という自治会もある。

それぞれの地区に合った連合と自治会、さらには地区社協というテーマを持った組織との関係を見つけ出せればいいのだと思います。「これが絶対的な正解」という形はないと思いますので、是非、皆さんそれぞれが次の発展段階を作り出していただければと思います。

あと10分ほどになってしまいましたが、「こんなことを問題提起したい」とか、「こういうことをもう少し補足したい」ということがありましたらどうぞ。

会場E 千丸台地区の者です。中村地区と池辺地区で実際に活動しているスタッフの方々の年齢は大体どのくらいでしょうか。

山路 千丸台で活動している方々は何歳くらいなんですか。

会場E もう自分が支援してもらうくらいの高齢者がやっております。

山路 でも、そこが千丸台の力ですね。

会場E ええ。

山路 年齢だけで自分がサービスを受ける側だと決めないで、その人たちが「自ら活動しないと千丸台は駄目だよ」と頑張っているところが力になっている訳ですね。では、他の地区ではどういう方が中心なんでしょうか。

会場E 2地区とも若そうでしたから、どういう形でそういう若い方を集めているのかなと思ひまして。

杉山 中村地区は、実際に動いているのが大体50代、60代ですね。協力スタッフのサークルや住民の方は、割合、高齢者も多いのですが、皆さん元気なので、若い人よりパワフル

です。そんな感じでいつもやっています。

山路 50代、60代というと現役ですが、集まる際に御苦労はありませんか。例えば、平日の昼間は厳しいですね。

杉山 男の方はもう少し上ですね。

山路 50代、60代の主婦の方が多いということですか。

杉山 はい、実際の活動に携わっているのは主婦ですね。

山路 女性のパワーということなんですね。

杉山 はい。それからイベント当日には若い方も手伝ってくれています。

山路 当日は現役世代も来てくださるんですね。

杉山 そうですね、できるだけそういう方に手伝っていただきたいなと思っています。

山路 今度は、池辺地区の栗原さん、お願いします。

栗原 私、今40代なんですけど、子育て世代、子供会のお母さん方にも協力してもらっています。活動者は、その世代と、もっと上の方もいらっしゃるね。下は極端なことを言うと20代、30代ぐらいの方から、上は70ぐらい、そのぐらいまでの方ですね。部門によって変わってくるんですが、今回の事業に関しては、このぐらいの方が関わっていると思います。

山路 関わり方ですが、世代に関係なく同じようなことをやっているんですか。

栗原 そうですね、やることにもよると思うんですが、今回の流しそうめんでしたら、体指、青指の方々や町会長、子供会の方々にもお手伝いいただきました。活動内容に応じて、人を集めるという形になると思います。

山路 もうひとつ伺います。池辺町では、若手のリーダーは旧住民の2代目、3代目と言いますか、御子息の方ですけれども、それ以外に例えば、おやじの会などには新住民の方々もたくさんいらっしゃるのでしょうか。

栗原 はい。

山路 そのような新旧住民という関係は気になるところはないですか。

栗原 そうですね、やはり最初はなかなかコミュニケーションを取るのが大変なんですけど、おやじの会では、ノミネーションといいますが、なるべく我々は飲み会を多くいたしまして、その席で色々なことを言いながら、コミュニケーションをとっていきました。新しい方もこういう活動に関わりたい方はたくさんいますし、嫌だという方もいる。旧住民の方も全員出てくる訳ではないです。この辺は一緒だと思います。なるべく解きほぐしながら「来いよ来いよ」と引き込むようにしています。

山路 新旧はあまり関係なく、やる人はやるということですね。

栗原 そうですね。やってもらえる方は本当にやってもらえます。もうその辺は全然関係ないです。

会場E どうもありがとうございます。もう1点聞かせて欲しいのですが、これから高齢者がどんどん増えていく訳ですが、そういう状況で高齢者の見守り活動で、「こういう活動をしたら高齢者が救われるんじゃないか、良くなるんじゃないか」というアイデアがあったらお聞かせいただきたいのですが。

座間 先ほど言ってもらおうと思ったんですが、池辺町連合自治会では「安心くん」というのが、高齢者の訪問ができるシステムになっているんです。先ほどは詳しいことを言わなかったんで、もう1回言わせてますのでお願いします。

山路 「安心くん」が一体どんなものなのか、簡単に仕組みを御説明いただけますか。

柴田 はい、すみません。先ほどは失礼しました。

ということで、安心くんですが、平成17年度に始めた活動です。都筑区で、災害時に地域のひとり暮らし高齢者にどんな手助けができるかという問いかけがありました。池辺では連合自治会、地区社協、民児協という関係者が集まって、検討しました。ひとり暮らしに限らず、地震が起きたとき、高齢者はどうするのかな、ということを当事者の目線で考えました。窓を蹴破って逃げるようなことはできないし、災害で亡くなるとしたら、それは逃げ出すことができないで家の中に閉じ込められるケースが最も考えられるのではないかということになりました。では、閉じ込められたときにどうすればいいか、その対策としてグッズを考えたいです。それにはまず、声も出せないかもしれないから「中にいるよ」ということを知らせる笛がいいんじゃないかとか、懐中電灯も先を照らすだけじゃなくて、蛍光灯の付いたものがある、「これなら6時間ぐらい照らせるよ」とか、民児協の方々などで色々協議をしました。そこで役に立ちそうな6点か7点を袋に入れ、「安心くん」というネーミングでひとり暮らし高齢者や障害を持った方などの家庭に配布しました。

安心くんにはもうひとつ大きな目的があります。中にはキャラメルとか、普通に飲めるペットボトルの水などを入れました。これらは5年、10年持つような防災用のものもあるんですが、普通に賞味期限のあるものを入れました。なぜかという、期限が半年なので、少なくとも半年ごとに1回、中身を交換しに行かなければいけない。つまり少なくとも半年に1回、見守り活動ができる訳です。訪問したときには懐中電灯の電池の確認などもします。そのように訪問活動のきっかけを作るグッズとしています。今、色々な地域から「教えてくれ」と言っていておりまして、この活動が少しずつ他の方にも理解してもらえているのかなと思っています。

山路 ありがとうございます。安心くん、ナップザックのような袋に入っているものですよ。他の地区にも広がりつつあって、似たような例をよく耳にします。またどこかで参考にしていただければと思います。

そろそろ終了の時間になってしまいました。実は、私の中でもう少し議論したいな、あるいは、皆さんの御提案を受けたいなと思っていたことは、地域がどんどん元気になっていくために、「行政のあるべき姿勢」とはどういうものなのか、ということだったんです。

先ほど、池辺地区でも「行政の協力体制があって」とか、「助成金の意義は何だろう」といった提起がありましたが、行政は地域に対してどういう支援をすべきなのか、どうあったら本当は一番ありがたいのか、という議論ができたらいいなと思っていました。

今日、ヒントとして出てきたのは、地域組織の問題ですね。横浜には単位自治会町内会が2,800ほど、連合自治会は250ぐらいだったと思いますが、行政の意識が、単に「250ぐらいしか付き合えないから連合自治会が相手」というようでは困る訳です。単位自治会と

は何ができて、連合自治会、あるいは地区社協とは何ができて、というようなことを踏まえながら、「行政はそれぞれとどう関わるか」ということを、行政側としてもこういう機会に是非御議論いただきたいと思います。同時に、地域でも新たな行政との関係づくりに関して工夫していく必要があるのかなと思います。

残念ながら時間になってしまいましたので、今日のところは終わりにしましょう。皆さん、どうもありがとうございました。